

## 教育改善部門（旧 評価・FD 研究部門）事業報告

### 1. はじめに

当部門は、全学教務委員会の評価・FD教育改善専門部会の下で、「学生による授業評価」および「長崎大学FD・SD」の事業を行っている。以下、その実施概要を報告する。

設問 5	自分は、シラバスに記載された授業目標を達成することができた。
設問 6	自分は、この授業によって学習意欲が喚起された。
設問 7	総合的にみて、この授業は自分にとって満足できるものであった。

### 2. 平成24年度『学生による授業評価』実施状況

#### 2.1 概要

長崎大学では、平成14年度から全授業科目を対象として『学生による授業評価』を実施している。本学では、『学生による授業評価』を総括的に捉えるために表1のような全学共通項目を設けている。この全学共通項目に加え、教養教育(1～2年次生)においては科目別追加項目を、専門教育においては部局別追加項目をカテゴリー(評価項目の集まり)として設定している。さらに担当教員は、授業評価毎に個別の追加項目を加えることもできるようになっている。また、学生の選択肢は全ての設問に共通で表2のようにになっている。なお、本紀要の執筆時において、平成25年度後期の授業評価は実施中であるため、平成24年度の授業評価について報告するものとする。

表1 全学共通項目

設問 1	シラバスは、授業の目標や計画及び評価方法を適切に示していた。
設問 2	授業は目的達成のため計画的に進められた。
設問 3	授業担当者の教え方は適切だった。
設問 4	授業担当者は、学生が質問や相談しやすい環境・雰囲気作りを行った。

#### 2.3 参考資料

- [1] 長崎大学公式ページ『大学点検・評価』→『学生による授業評価』：  
[http://www.nagasaki-u.ac.jp/plan/pln\\_jug\\_hyoka.html](http://www.nagasaki-u.ac.jp/plan/pln_jug_hyoka.html)
- [2] 長崎大学大学教育機能開発センター公式ページ『授業評価』：  
[http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/teaching\\_valuation/index.html](http://www.redc.nagasaki-u.ac.jp/teaching_valuation/index.html)

表2 学生の選択肢

そう思う
どちらかといえばそう思う
どちらともいえない
どちらかといえばそう思わない
そう思わない

#### 2.2 受付状況および実施状況

平成24年度の受付状況および実施状況は表3に示す通りである。なお、平成23年度より、全科目ではなく各教員の希望科目(年1科目以上)について授業評価を行っている。

表3 平成24年度の受付状況および実施状況

受付件数	1190件
実施件数	1102件
実施率(%)	92.6%

表3よりわかる通り、平成24年度においては1190件の申し込みがあり、事前の取り消しや未実施のものを除くと1102件が実施された。また、実施率(実施件数/受付件数)は92.6%であった。

### 3. 平成25年に実施した長崎大学FD・SD

当部門は、教務委員会の評価・FD教育改善専門部会と協力しながら「長崎大学FD・SD」の企画・運営を行っている。ここでは、平成25年1月から同年12月にかけて全教職員または全教員を対象に実施された集合研修について報告する。

#### 3.1 モジュールフォーラム「初年度を総括する」

##### (1)趣旨

新たに始まったモジュール形式での教養教育について、科目担当者対象の総括調査と授業評価の結果をもとに総括し、次年度に向けての課題を整理するとともに改善施策について討論を行った。

##### (2)対象

全学モジュール科目関係者（テーマ責任者、授業科目責任者、授業科目分担者）、全学教務委員会委員、評価・FD教育改善専門部会委員、各学部の教務委員会委員など教養教育科目関係者

##### (3)日時

平成25年3月7日（木）13:30～15:30

##### (4)場所

教育学部41番教室

##### (5)参加数

17名

##### (6)プログラム

時間	内容	講師
13:30～ 13:40	趣旨説明	佐久間正 理事 (教学担当)
13:40～ 14:00	総括調査の報告	山地弘起 教授 (大学教育機能 開発センター)
14:00～ 14:15	質疑応答	
14:15～ 15:00	グループ討論	
15:00～ 15:30	報告と全体討論	

#### 3.2 FD・SDスプリングワークショップ

##### (1)趣旨

本学の学士課程教育の充実に向けて、学生主体の学習形態（アクティブラーニング）を様々な工夫していくことが求められている。そこで、①全学モジュール科目でのアクティブラーニングの事例報告、②クリッカーの活用法、③グループワークを充実させるコツ、の3つのプログラムを実施した。

##### ①アクティブラーニングをいかに工夫するか ーモジュールI科目の挑戦

平成24年度後期からスタートした全学モジュール科目の中から8つの科目を取り上げ、分科会A（自然科学系・生命科学系）・分科会B（社会科学系・生命科学系）に分かれて、苦勞した点・失敗した点も含めて話題提供していただいた。それをもとに総括討論では、フロア全体で次年度の授業に向けて工夫を出し合う機会とした。

##### ②クリッカー活用法…A（入門編）、B（応用編）

学生の参加度や意欲を高め、学修成果につながる授業を工夫してこられた末本哲雄氏（大分大学高等教育開発センター・講師）を講師として招き、クリッカーの有効な活用法を紹介していただいた。入門編では、クリッカーを実際に活用する際の事前準備から後処理までを順次習得した。また、応用編では、クリッカー使用上の疑問点や悩みなどを出し合い、解決を工夫するとともにさらに効果的な活用法について話し合った。

##### ③グループワークを充実させるコツ

授業でグループワークを行う際、学生の集中力を高める方法や活発な意見交換を行うための働きかけの方法について、会議ファシリテーションの第一人者である釘山健一氏（会議ファシリテーター普及協会・代表）を講師として招き、グループワーク充実に向けてすぐに使える重要ポイントを体験的に習得する活動を行った。

##### (2)対象

全教職員（非常勤を含む）、TA

##### (3)日時と場所

①平成25年3月7日（木）15:45～18:00

（分科会A）教育学部21番教室、（分科会B）教育学部22番教室

②平成 25 年 3 月 21 日（木）A（入門編）13:30～15:00、B（応用編）15:30～17:00

教育学部 41 番教室

③平成 25 年 3 月 26 日（火）13:30～17:00

新棟 5 番教室

(4)参加数

①（分科会 A）15 名、（分科会 B）9 名

②（入門編）6 名、（応用編）1 名

③19 名

(5)プログラム

時間	内容	講師
<b>① 3 月 7 日（木）</b>		
15:45～18:00	アクティブラーニングをいかに工夫するかーモジュール I 科目の挑戦	<分科会 A> 山田博俊 准教授（工学部）、岩田修永 教授（薬学部）、根本孝幸 教授（歯学部）、上繁義史 准教授（情報メディア基盤センター） <分科会 B> 深浦厚之 教授（経済学部）、村田潤 准教授（保健学科）、波佐間逸博 助教（国際連携研究戦略本部）、橋本健夫 学長特別補佐
<b>② 3 月 21 日（木）</b>		
入門編 13:30～15:00 応用編 15:30～17:00	クリッカー活用法 入門編、応用編	末本哲雄氏（大分大学高等教育開発センター・講師）
<b>③ 3 月 26 日（火）</b>		
13:30～17:00	グループワークを充実させるコツ	釘山健一氏（会議ファシリテーター普及協会・代表）

### 3.3 新任教職員研修「ウェルカム・ガイダンス」

(1)趣旨

新任の教職員を対象に、長崎大学で職務を開始するにあたってのガイダンスを、例年同様二日間にわたって行った。1 日目は、長崎大学が目指す教育、研究、社会貢献等に関する基本的知識を得ることが目指された。2 日目は、歴史的遺構を巡るキャンパスツアー「長崎大学歴史散歩」を行い、長崎大学にかかわる歴史を知って本学への帰属意識を深めることが目指された。

(2)対象

平成 24 年 4 月以降に長崎大学に新たに赴任した教職員

#### 第 1 日 第 1 部「長崎大学が目指すもの」

(3)日時

平成 25 年 4 月 2 日（火）13:00～15:00

(4)場所

事務局第 2 会議室

(5)参加数

64 名

(6)プログラム

時間	内容	講師
13:00～13:20	集合・写真撮影	
13:20～13:25	開会の挨拶	佐久間正 理事（教学担当）
13:25～14:25	「新任教職員へのメッセージ～長崎大学の課題と展望～」	片峰 茂 学長
14:25～14:55	質疑応答	
14:55～15:00	閉会の挨拶	山地弘起 教授（大学教育機能開発センター）

#### 第 2 日 第 2 部「長崎大学歴史散歩－150 年をふりかえる」

(3)日時

平成 25 年 4 月 3 日（水）13:00～17:15

(4)場所

長崎大学（文教・片淵・坂本各キャンパス）

(5)参加数

30名

(6)プログラム

時間	内容	講師
13:00~13:05	挨拶	佐久間正 理事 (教学担当)
<b>文教キャンパス歴史散歩</b>		
13:15~14:20	三菱長崎兵器製作所の碑	橋本健夫 学長特別補佐、高橋正克教授 (大学教育機能開発センター)
	長崎師範学校原爆慰霊碑	
	中部講堂	
	「若人」の像	
	環境科学部正門前 (旧教養部建物)	池田理恵 助教 (医歯薬学総合研究科)
	下村脩名誉博士顕彰記念館 (薬学部)	
	お薬の歴史資料館 (薬学部)	
休憩・バス移動		
<b>坂本キャンパス歴史散歩</b>		
14:30~15:40	近代医学史料展示室 (附属図書館医学分館)	志波原智美 主査 (学術情報部)
	熱帯医学ミュージアム (熱帯医学研究所)	堀尾政博 教授 (熱帯医学研究所)
	原爆医学資料展示室 (原爆後障害医療研究施設 2号館)	三根眞理子 教授 (核兵器廃絶研究センター)
休憩・バス移動		
<b>片淵キャンパス歴史散歩</b>		
16:05~17:10	拱橋 (こまねきばし)	村田省三 教授 (経済学部)
	長崎高商門標	
	瓊林会館	
	赤レンガ倉庫	赤石孝次 教授 (経済学部)
	特別講演「高商 100年と武藤文庫」	
	武藤文庫展示室	宮脇千幸 主査 (学術情報部)
17:10~17:15	まとめ	山地弘起 教授 (大学教育機能開発センター)

3.4 教育革新シンポジウム「アクティブラーニングを促進するスペース活用」

(1)趣旨

本学では、新たに教養教育棟と附属図書館が改修され、アクティブラーニングを前提としたスペースがいくつか誕生した。そこで、シンポジウムを開催し、第1部では、学習空間とICTを創造的に活用してアクティブラーニングを実践・研究しおられる山田政寛氏 (九州大学基幹教育院教育企画開発部・准教授) を招き、先端事例の紹介を含めた基調講演をしていただいた。また、第2部では、本学での新たな学習環境の紹介と活用事例を報告し、その後、全体で討論を行った。

(2)対象

全教職員

(3)日時

平成 25 年 8 月 3 日 (土) 13:30~17:00

(4)場所

文教スカイホール (グローバル教育・学生支援棟)

(5)参加数

37名

(6)プログラム

時間	内容	講師
13:30~13:40	開会挨拶	片峰 茂 学長
<b>第1部</b>		
13:40~15:00	基調講演「協調的なアクティブラーニングを取り入れた授業デザイン～学習行動、学習空間、学習ツールの観点から」	山田 政寛氏 (九州大学基幹教育院教育企画開発部・准教授)
15:00~15:15	質疑応答	
15:15~15:30	休憩	
<b>第2部</b>		
15:30~15:55	報告「教養教育棟における新たな教室空間」	橋本健夫 学長特別補佐、川越明日香 助教 (大学教育機能開発センター)

15:55~ 16:20	報告「附属図書館のラーニングコモンズ」	小川稔 課長 (学術情報部)
16:20~ 16:55	全体討論	司会：松田浩 教授 (情報メディア基盤センター長)
16:55~ 17:00	閉会挨拶	佐久間正 理事 (教学担当)

### 3.5 FD・SD サマークワックション

#### (1)趣旨

本ワークショップ・シリーズは、長崎大学の教職員が授業改善やコミュニケーション、教育支援等において十分に持ち味を生かせるようになることを目指して、毎年実施されている。ニーズの高い内容を精選し、実践にすぐにつながる学習形態を取り入れて、後期からの業務や授業の改善に効果が期待できるプログラム構成を試みている。

#### (2)対象

全教職員 (非常勤を含む)

#### (3)日時

平成 25 年 8 月 30 日 (金) 10:00-12:00  
 14:00-17:00  
 9 月 2 日 (月) 10:00-12:30  
 9 月 3 日 (火) 14:00-17:00  
 9 月 4 日 (水) 10:00-12:00  
 9 月 24 日 (火) 15:00-17:00  
 9 月 26 日 (木) 10:00-12:30

#### (4)場所

文教キャンパス内

#### (5)参加数

113 名 (延べ数)

#### (6)プログラム

時間	内容	講師
<b>8 月 30 日 (金)</b>		
10:00~ 12:00	①新入教員のための授業創造入門	山地弘起 教授 (大学教育機能開発センター)
14:00~ 17:00	②コミュニケーション・スキルアップ「わかりやすい話し方のコツ」	小田切めぐみ氏 (東京農工大学・非常勤講師)

<b>9 月 2 日 (月)</b>		
10:00~ 12:30	③新任教授へのメッセージー長崎大学の課題と展望ー	片峰茂学長、山崎裕史理事 (財務担当)、福永博俊理事 (人事担当)、佐久間正理事 (教学担当)、調漸理事 (研究担当)
<b>9 月 3 日 (火)</b>		
14:00~ 17:00	④アクティブラーニング事例報告ーモジュールⅡ前期科目よりー	<分科会 A> 安武亨 教授 (医学部)、吉村篤利准教授 (歯学部)、和田光弘 准教授 (薬学部)、勝田順一 准教授 (工学部)、岡田二郎教授 (環境科学部)、石橋郁人教授 (水産学部) <分科会 B> 柴多一雄 教授 (経済学部)、松村真樹 准教授 (留学生センター)、全炳徳 教授 (教育学部)、楠葉洋子 准教授 (医学部保健学科)、川越明日香 助教 (大教センター)、山地弘起 教授 (大教センター)
<b>9 月 4 日 (水)</b>		
10:00~ 12:00	⑤モジュール・フォーラムーモジュールⅡ前期科目の総括ー	佐久間正 理事、山地弘起 教授 (大教センター)、川越明日香 助教 (大教センター)
<b>9 月 24 日 (火)</b>		
15:00~ 17:00	⑥ファシリテーション・スキルアップー話し合い活性化の基礎ー	西村宣彦 教授 (経済学部)
<b>9 月 26 日 (木)</b>		
10:00~ 12:30	⑦学生とともに進める教育改善	「学生による教育改善のための協議会」メンバー、評価・FD 教育改善専門部会委員

(7)付記

アクティブラーニング事例報告は、学内オンデマンド視聴ができるよう編集中である。

3.6 教育革新シンポジウム「主体的な学びを促進する支援環境について考える」

(1)趣旨

学生の主体的な学びを確立するためには、個々の教員がそのことの重要性を自覚し個々の授業をさらに質的に進化させ、十分な質を伴った学修時間を確保することが必要となってくる。そこで、学生の主体的な学びを促進する支援環境として教学システムやポートフォリオに着目し、日本におけるポートフォリオ研究の第一人者である土持ゲーリー法一氏（帝京大学高等教育開発センター・教授）を招き、ご講演いただいた上で、各大学の先進的な事例をご報告いただいた。さらに、本学の教育改善が目指す方向性や本学が構築を進めている主体的学習支援システム（LACS）について現状報告を行った。

(2)対象

全教職員、学生

(3)日時

平成 25 年 9 月 12 日（木）13:00～17:30

(4)場所

中部講堂

(5)参加数

167 名

(6)プログラム

時間	内容	講師
13:00～13:10	開会挨拶	片峰 茂 学長
13:10～13:30	長崎大学に導入する主体的学習支援システム（LACS）について	佐久間正 理事（教学担当）
13:30～14:30	基調講演「主体的学びにつなげる学修ポートフォリオのための授業設計～ICE ルーブリックによる新たな評価方法～」	土持ゲーリー法一 教授（帝京大学高等教育開発センター長）

14:30～14:45	休憩	
14:45～15:15	事例報告 1「新潟大学学士力アセスメントシステム（NBAS）の目指すもの」	生田孝至 理事・副学長（教育担当）
15:15～15:45	事例報告 2「eラーニング大学院のカリキュラム設計と学習環境及びその eポートフォリオ～熊本大学教授システム学専攻の事例から～」	中野裕司 教授（熊本大学総合情報基盤センター長）
15:45～16:15	事例報告 3「eラーニングから eエデュケーションへ」	橋本順一 教授（玉川大学 eエデュケーションセンター長）
16:15～16:25	休憩	
16:25～17:25	パネルディスカッション	司会：丹羽量久 教授（情報メディア基盤センター） 各報告者、橋本健夫 学長特別補佐
17:25～17:30	閉会の挨拶	佐久間正 理事（教学担当）

(7)付記

本シンポジウムは、情報メディア基盤センターとの共催である。

3.7 その他

上記の事業以外に①基礎力テスト報告会：平成 25 年 2 月 18 日（月）16：00～17：30、②学長と「学生による教育改善のための協議会」代表者との意見交換会：平成 25 年 3 月 27 日（水）13：00～14：40、③TA 研修：平成 25 年 3 月 26 日（火）、平成 26 年 9 月 24 日（火）・26 日（木）（90 分で実施）を実施した。

4. おわりに

本稿では、旧大学教育機能開発センターの評価・FD 研究部門が関わる 2 つの事業「学生による授業評価」と「長崎大学 FD・SD」について、平成 25 年の実施概要を報告した。